

# 第1章 板橋区の概要

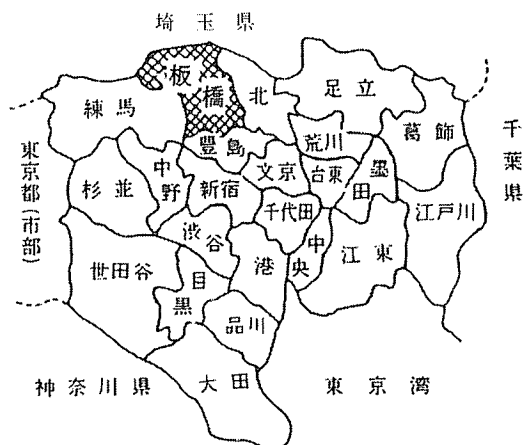
板橋区のコミュニティ意識調査の分析を行う前に、まず板橋区の概要について、簡単ではあるが触れておく。

## (1) 自然・地勢

板橋区は、東京23区の中で北西部に位置し、北は埼玉県戸田市と、東は和光市と接する都県境の都市である。面積は32.17km<sup>2</sup>で23区中9番目の大きさである。

地形は概ね北東部が荒川沖積低地、南西部が武蔵野台地で構成されている。北辺を荒川、新河岸川が流れ、中央を石神井川が横断する、起伏に富んだ地形である。

図表1 板橋区の位置図



## (2) 人 口

人口は、503,286人（住民基本台帳、平成14年4月1日現在）で23区中7位、外国人登録数は14,101人（平成14年4月1日現在）で23区中8位である。人口は平成4年の50万7千人をピークに一旦減少に転じたが、平成9年に再び増加傾向に転じ、以降微増傾向が続いている。

人口構成は、年少人口が11.62%、老年人口（65歳以上）が16.73%と高齢化が進んでいるが、23区の中では比較的若年層が多い構成となっている。

## (3) 歴史・沿革

板橋の地名は約800年前の「源平盛衰記」や「義経記」にはじめて登場する。その地名は、一般には中山道が石神井川を横切る地点に架けられた木の橋に由来するとされている。

江戸時代には板橋宿は中山道第一番目の、また上板橋宿が川越街道の宿場町として栄え、北部は江戸農作物を供給する近郊農業の村として発展した。

板橋宿には、幕末に皇女和宮が14代将軍家茂に嫁するとき根元から梢まで菰（こも）で包んだという縁切り榎がある。また、新撰組の近藤勇が処刑された場所でもある。

区の北部にある高島平は、今は高層住宅群が有名であるが、幕末に高島秋帆が初めて洋式軍隊の演習をした場所として知られる。

明治維新を経て板橋地域は東京府に編入され、明治22年町村制施行の際、板橋町、上板橋村、赤塚村、志村にそれぞれ役場が設置された。昭和7年東京35区の一つとして板橋区は誕生する。その後昭和22年に練馬区が分離したが、自治体としての板橋区は、昭和7年を誕生の年とし、昨年平成14年に70周年を迎えた。

#### (4) 交通の状況

板橋区の主要道路として、南北に国道17号線（中山道）と川越街道が縦断し、東西に環状7号線や8号線（途中まで）、新大宮バイパスが横断する。また、埼玉県と都心を結ぶ首都高速5号池袋線が区の中央を走る。

鉄道は、JR埼京線が区の東部をかすめるように走り、板橋駅、浮間舟渡駅がある。また、川越街道に沿うように東武東上線が走るほか、都営三田線が高島通り及び中山道に沿って区を縦貫している。さらに、西部を地下鉄有楽町線が走る。都心への交通の便はよく、ベッドタウンとしての区の顔を支えている。

#### (5) 区政の概要

板橋区の財政規模は、平成14年度当初予算で1,527億円である。バブル崩壊以降の景気低迷の影響は板橋区にとっても同様で、区税収入の減少等により、厳しい区政経営を余儀なくされている。

このような中でも区民生活を守るため、区の将来像「活力ある緑と文化のまち板橋」の実現に向け、区の基本計画（2005計画）に基づく計画的な事業執行を図るとともに、再生経営改革推進計画等により、行政改革を継続的に推進している。

基本計画では、区内を板橋地域、常盤台地域、志村地域、赤塚地域、高島平地域に区分し、それぞれの自然条件や発展の沿革等から生ずる地域特性に基づき、地域ごとの施設計画やまちづくり計画を定めている。

図表2 板橋区交通と五地域区分

